

令和4年度河川水質調査 結果報告(9月実施分)



村では環境保全の状況確認のため、9月と1月の2回、谷太郎川、小鮎川および金翅川の3河川(5ヶ所)で、生活環境の保全に関する基本的な測定項目の調査を実施しています。令和4年度より、環境基準が大腸菌群数から、よりふん便汚染の指標性が高い大腸菌数に見直しとなりました。

調査項目の解説	PH(水素イオン濃度)	PH7が中性で、それより数値が大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
	BOD(生物化学的酸素要求量)	水のきれいさを示す代表的数値。数値が低いほど良い。
	SS(浮遊物質)	数値が低いほど濁りが少なく、透明度が高い。
	DO(溶存酸素量)	数値が高いほど酸素量が多く、汚染源となる有機物が少ないため、数値が高いほど良い。
	大腸菌数	主にふん便汚染に由来する細菌の数を示す数値。数値が低いほど良い。

調査項目		実施日	PH	BOD (単位:mg/ℓ)	SS (単位:mg/ℓ)	DO (単位:mg/ℓ)	大腸菌数 (単位:CFU/100mℓ)
採水場所							
谷太郎川	水の尻沢橋	令和4年9月14日	7.7	0.2	<1	9.9	25
小鮎川	原下地区	令和4年9月14日	8.0	0.2	<1	10.0	230
	片原橋	令和4年9月14日	7.9	0.6	1	9.6	520
	寺鐘橋	令和4年9月14日	7.9	0.7	2	9.4	180
金翅川	御門橋	令和4年9月14日	8.2	0.2	<1	9.8	610
基準値(目標値)			6.5~8.5	2mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	300CFU/ 100mℓ以下

- 記号「<」は、定量下限値未満であることをあらわします。
- 小鮎川は水域類型Aを、谷太郎川および金翅川は環境基準が定められていないため、2河川の流入先である小鮎川の水域類型Aを目標値としています。
- 基準値を超える数値は太字で表記しています。



- PH、BOD、SS、DOの項目全てにおいて、環境基準を満たす数値を計測しました。
- 大腸菌数の数値については、今後も動向を注視していきます。
- 川に入ったときは、手足をしっかりと洗ってください。